

高校「読書大賞」 10周年記念ロゴ

上伊那8校の協議会作成

上伊那地方にある県立高校8校の図書委員らでつくる上伊那高校図書館協議会は、毎年続けている「読書大賞」が本年度10周年を迎えたのを記念し、ロゴマークを作った。各校の生徒と教員に呼び掛けて集まった18作品から、駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)電気科3年の入戸龍兵さん(18)

のデザインを採用。今後の読書大賞で使うほか、同協議会が発刊し、上伊那の公共図書館に配る広報紙に掲載する。入戸さんは、授業で教員から勧められ昨年10月にロゴマーク作りを開始。「本を読んだ高校生が自分の夢を膨らませていく様子」を想像し、円状に並べたカラフルな本と、



採用されたロゴマークが印刷された紙を手にする入戸さん

小さな星を配置したデザインにした。デザイナー志望の入戸さんは「選ばれてうれしい。多くの本好きの高校生に届く」と話した。

読書大賞は、本を通じた生徒の交流を目的に実施。毎回、同協議会の生徒が決めたテーマで候補となる本を複数選び、一般の生徒を含めて感想を出し合った上で、最終投票を経て大賞を決めている。音楽がテーマだった本年度は、恩田陸さんの「蜜蜂と遠雷」が大賞に選んだ。

この記事・写真等は、信濃毎日新聞社の許諾を得て転載しています。

【許諾番号】 shin2018-komakou 74s